

平成30年度決算に係る
定期監査調書

令和元年7月

農業試験場

目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1 頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況	1 頁
3	組織及び業務調べ	1 頁
4	職員の定員、現員調べ	1 頁
5	役付職員の調べ	1 頁
6	主な事業に関する調べ	2 頁
7	収入証紙取扱額調べ	4 頁
8	収入事務処理状況調べ	4 頁
	(1) 分担金及び負担金	
	(2) 使用料	
	(3) 手数料	
	(4) 財産収入	
	(5) 諸収入	
	(6) 現金の取扱状況	
9	収入未済額調べ	6 頁
10	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	6 頁
11	不納欠損額調べ	6 頁
12	負担金、交付金及び委託料支出状況調べ	7 頁
	(1) 負担金	
	(2) 補助金	
	(3) 交付金	
	(4) 委託料	
13	工事請負費調べ	8 頁
14	財産に関する調べ	9 頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の受払状況	
15	財産の貸付及び使用許可調べ	13 頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品	
16	借受不動産明細調べ	13 頁
17	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	14 頁
	(1) 職員住宅	
	(2) 職員駐車場	
18	寄附物件の受納状況調べ	15 頁
19	備品の処分状況調べ	15 頁
20	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	16 頁
	(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	
	(2) 物品の照合	
21	事業別予算執行状況調べ	17 頁
22	農業機械の管理状況	19 頁
23	生産物(品)に関する調べ	20 頁
24	試験研究調査事業別実施状況調べ	21 頁
○	意見・要望等	36 頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1)指摘事項 該当なし

(2)監査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況 該当なし

3 組織及び業務調べ

課名	係(担当)名	課の主な所掌事務
農業試験場	作物研究室	(1)主要農作物の育種及び栽培に関すること (2)主要農作物の原種及び原原種に関すること (3)農業経営技術の改善に関すること (4)水田機能の維持・保全に関すること (5)農業機械化に関すること (6)水田転作野菜に関すること
	環境研究室	(7)土壌肥料及び土壌保全に関すること (8)主要農作物の病害虫に関すること (9)土壌、肥料等の分析に関すること
	有機・特別栽培研究室	(10)有機・特別栽培の生産技術に関すること

4 職員の定員、現員調べ

(平成31年4月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	当該年度	30.4.1現在	当該年度	30.4.1現在	当該年度	30.4.1現在	当該年度	30.4.1現在	
定員	1	1	18	18	4	4	23	23	
現員	1	1	17	18	4	4	22	23	休職中
	(1)	(1)	(6)	(6)			(7)	(7)	病害虫防除所兼務
過不足(Δ)	0	0	(1)	0	0	0	(1)	0	
臨時職員		0		0		0	0	0	
非常勤職員	1	1		0	15	17	16	18	ほ場管理専門員1名、農業技術員14名 事務員1名




5 役付職員の調べ

(令和元年7月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
		年	月	
場長	米山 肇	1	3	(病害虫防除所)
作物研究室長	橋本 俊司	5	3	出納員
環境研究室長	長谷川 優	4	3	(病害虫防除所)
有機・特別栽培研究室長	前田 英博	5	3	
課長補佐	前田 浩一	1	3	出納員、(病害虫防除所)
作物研究室上席研究員	福見 尚哉	1	3	

6 主な事業に関する調べ

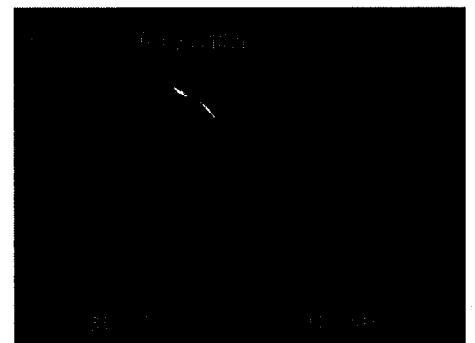
(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳		
		国庫支出金	一般財源	その他
水稲新品種育成試験	1,567			1,567
鳥取元気プロジェクト	(2) 産業を元気に	元気な農業に向けて農業活力増進プランを実行		
元気づくり総合戦略	(2) 農林水産業	農林水産業の活力増進		
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
<ul style="list-style-type: none"> ・食のみやこ鳥取県にふさわしい鳥取県オリジナルのブランド品種を育成し、有利販売につなげる。 				
(イ) 事業の実施状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・新規に12組合せの人工交配を実施した。 ・F1、F3について、それぞれ約80組合せ、計3万個体の初期世代を養成した。 ・F6以降の世代について、極早生、早生、中生、糯、酒米について計147系統を栽培し、今後、収量性、品質、食味等の評価に基づき選抜することとした。 <p>※ F1とは雑種第1代を示す。</p> <p>雑種第5代であるF5で形質が安定したものを選抜し固定化、その後形質を評価する。</p>				
イ 平成30年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
<ul style="list-style-type: none"> ・「特になし」 				
ウ 成果及び効果				
<ul style="list-style-type: none"> ・「星空舞」を平成30年6月15日、品種登録申請した。奨励品種に採用され、県内27か所、5.1haの現地で試験栽培され、1等米比率86%と高い結果が得られた。今後、鳥取県の顔となる品種としてブランド化していく方向となり、平成31年度には300haと大幅に面積増加させる方向となった。 ・「鳥系酒105号」を育成し、酒造業者による商業的醸造が開始された。 ・「星空舞」「プリンセスかおり」「鳥系酒105号」の水稲3品種を産地品種銘柄設定に申請した。 				
				
星空舞		コシヒカリ		
エ 課題				
<ul style="list-style-type: none"> ・今後は需要側からの要望が強い、業務用品種の開発を強めていく。 ・酒造用品種について、酒造業者が醸造を行うと品種の未譲渡性に抵触するおそれがあることから、業者による醸造試験の実施が極めて困難な状況となっている。 				

6 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳		
		国庫支出金	一般財源	その他
「ゆうきの玉手箱（参の重）」技術確立↑ ステップアップ編	1,428			1,428
鳥取元気プロジェクト	(2)産業を元気に	元気な農業に向けて農業活力増進プランを実行		
元気づくり総合戦略	(2)農林水産業	農林水産業の活力増進		
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
<ul style="list-style-type: none"> 主に水稻・大豆の有機栽培を対象として安定生産及び栽培面積拡大につながる取り組みやすい技術メニューを、他産業とも連携しつつ確立・拡充し、「鳥取県有機・特別栽培推進計画」の着実な達成に寄与する。 加えて、有機栽培に適応する品種および品目を見出し、「食のみやこ鳥取県」を推進する旗頭となるよう、特色ある有機農産物の生産拡大に資する。 				
(イ) 事業の実施状況				
<ul style="list-style-type: none"> イトミミズを利用した抑草法確立のため、イトミミズがつくる膨軟層の抑草メカニズムを解明、抑草条件を明らかにし、効果を確認した。そのほか、水稻有機栽培に適する品種の検討等を実施した。 地元企業と連携し、害虫対策として安価な光防除用の緑色LED灯器材の改良を継続して進めるとともに、ハスモンヨトウ等ヤガ類に対する試作器材の防除効果確認試験を場内及び現地ほ場にて実施した。また、野菜等への適用拡大を検討した。 田畑輪換による雑草抑制効果を引き続き検証した。また、その際の転換畑での有機栽培に適する品目として、野菜品目以外の機能性作物エゴマにも着目し、新たに検証を開始した。 				
イ 平成30年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
<ul style="list-style-type: none"> 特になし 				
ウ 成果及び効果				
<ul style="list-style-type: none"> イトミミズがつくる膨軟層の形成速度が1.3mm/日以上となると雑草発生が抑制され、その時のイトミミズの生息数は約2万頭/m²以上であることが明らかとなった。早くから湛水を開始することで、イトミミズ生息数は増加しやすくなるとともにイトミミズの活動が活性化する事が明らかとなった。 県内LED企業との農商工連携により、市販器材よりも低コスト高性能な緑色LED灯器材を開発し、商品化できた。防除効果については、大豆だけではなく野菜等にも適用拡大を目指して検討したところ、問題害虫であるアワノメイガ、オオタバコガに対しても発生を抑制し、幼虫による食害も軽減された。 他の試験項目に関しても、当初の計画通りほぼ進捗することができた。 				
エ 課題				
<ul style="list-style-type: none"> 気象条件等に左右されやすい有機栽培に関しては、単年度データのみでは、技術の普遍化が十分できない。年次変動や現地ほ場での適応性等を含め、引き続きデータ蓄積を行う。 イトミミズを利用した抑草対策ではイトミミズ増殖条件解明をさらに進め、技術確立を図る。 緑色LED灯を活用した害虫防除では、適応品目（適応虫種）の拡大を進めるとともに、より効果的な利用方法を解明し、防除技術確立を目指す。 				



7 収入証紙取扱額調べ 該当なし

8 収入事務処理状況調べ

(1) 分担金及び負担金 該当なし

(2) 使用料

(令和元年5月31日現在)
(単位:円)

目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
	節	細節							
行政財産使用料	行政財産使用料	電柱敷地等	3	35,180	35,180	0	0	鳥取県行政財産使用料	
		職員駐車場	501	501,000	501,000	0	0	〃	
		計(節)	504	536,180	536,180	0	0		
目計		504	536,180	536,180	0	0			
合計		504	536,180	536,180	0	0			

(3) 手数料 該当なし

(4) 財産収入

(令和元年5月31日現在)
(単位:円)

目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
	節	細節							
財産貸付収入	財産貸付収入	自動販売機設置	1	19,165	19,165	0	0	公有財産事務取扱要領	
		計(節)	1	19,165	19,165	0	0		
生産物売払収入	生産物売払収入	播種用原種ほか	103	5,571,734	5,571,734	0	0	生産品事務取扱要領(物品規則)	
		計(節)	103	5,571,734	5,571,734	0	0		
		目計	103	5,571,734	5,571,734	0	0		
合計		104	5,590,899	5,590,899	0	0			

(5) 諸収入

(令和元年5月31日現在)
(単位:円)

収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節							
農薬等検定受託事業収入	農薬等検定受託	1	4,430,277	4,430,277	0	0		
	委託研究の受託による受託金							
	計(節)	1	4,430,277	4,430,277	0	0		
	目計	1	4,430,277	4,430,277	0	0		
雑入	預金利息	1	3	3	0	0		
	H29年産米出荷助成金	1	39,528	39,528	0	0		
	自販機電気代	4	22,595	22,595	0	0		
	自販機販売取扱手数料	4	124,828	124,828	0	0		
	非常勤雇用保険料(本人負担分)	198	88,686	88,686	0	0		
	目計	208	275,640	275,640	0	0		
	合計	209	4,705,917	4,705,917	0	0		

(6) 現金の取扱状況
ア 現金取扱状況

(令和元年5月31日現在)
(単位:円)

収入科目(節)	収入済額(円)	件数(件)	備考
生産物売払収入	318,430	316	場内販売
合計	318,430	316	

イ つり銭の状況

つり銭の有無	無	つり銭の額(円)
		0

9 収入未済額調べ

該当なし

10 未収金回収促進のための取り組み状況調べ

該当なし

11 不納欠損額調べ

該当なし

12 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ

(1) 負担金

(令和元年5月31日現在)

(単位:円)

予算科目 (目)	予算令達額	負担金の名称	支出先	負担率	支出年月日	支出金額	支出の根拠法令等 (規約、要綱等を含む)	備考
(農業試験場費)	170,000	新規該当なし						
新規以外のもの						169,067		
目 計						169,067		
(農作物対策費)	10,000	新規該当なし						
新規以外のもの						10,000		
目 計						10,000		
合 計						179,067		

(2) 補助金

① 国補分

該当なし

② 単県分

該当なし

(3) 交付金

該当なし

(4)委託料

(令和元年5月31日現在)

(単位:円)

予算科目 (目)	国補 単 別の別	委託料の名称	委託契約の 相手方	当初契約			入札等年 月日(契約 保証金納 付等年月 日)	完了 年月日	支出の状況			備考		
				予定価格	(契約年月日) 契約額	契約期間			支出 区分	支出 年月日	金額			
													変更契約(最終)	(契約年月日) 契約額
農業試験場費														
上記の外、契約額が 250万円未満のもの														
目計														予定価格100万円 以上の契約なし
合計														

13 工事請負費調べ

該当なし

14 財産に関する調べ
 (1)公有財産
 了 土 地

行政・普通財産 の 区分	施設名等	所 在 地	前年度末			本年度異動状況					本年度末			備 考		
			面積(m ²)	価額(円)	増減別	異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	登記年月 日	面積(m ²)	価額(円)	面積(m ²)		価額(円)	
																面積(m ²)
行政財産	農業試験場圃 場	鳥取市橋本字原 縄手144-2外	27,011.58	0	増加	H			H	27,011.58			0			
	農業試験場圃 場	鳥取市橋本字立 石162外	48,552.90	0	増加	H			H	48,552.90			0			
	農業試験場圃 場	鳥取市橋本字井 手ノ上206-1	4,986.00	0	増加	H			H	4,986.00			0			
	農業試験場敷 地	鳥取市橋本字井 手ノ上	3,619.00	0	増加	H			H	3,619.00			0			
	農業試験場敷 地	鳥取市橋本字下 敷江215-1外	6,032.00	0	増加	H			H	6,032.00			0			
	農業試験場敷 地	鳥取市橋本字上 敷江220外	5,855.00	0	増加	H			H	5,855.00			0			
	農業試験場敷 地	鳥取市橋本字加 源谷225-1外	3,252.82	0	増加	H			H	3,252.82			0			
	農業試験場敷 地	鳥取市橋本字 奥ヶ谷224外	19,987.95	0	増加	H			H	19,987.95			0			
	計			119,297.25	0					0.00	0.00		119,297.25	0		
	普通財産	なし				増加	H						0.00	0		
						減少	H									
	計			0.00	0						0.00		0.00	0		
合計			119,297.25	0						0.00		119,297.25	0			

イ 建物

行政・普通財産 の 区分	施設名等	所 在 地	前年度末			本年度異動状況					本年度末			備 考		
			面積(m ²)	価額(円)	増減別	異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	登記年月 日	面積(m ²)	価額(円)	面積(m ²)		価額(円)	
																面積(m ²)
行政財産	農業試験場本 館	鳥取市橋本	2,423.60	0	増加	H			H	2,423.60			0			
	付属棟	"	182.00		増加	H			H	182.00			0			
	渡廊下	"	24.00		増加	H			H	24.00			0			
	収納舎	"	495.00		増加	H			H	495.00			0			
	油倉庫	"	7.70		増加	H			H	7.70			0			
	車庫	"	118.67		増加	H			H	118.67			0			
	自転車置場	"	27.36		増加	H			H	27.36			0			
	土壌調査室	"	43.74		増加	H			H	43.74			0			
	土壌殺菌室	"	24.30		増加	H			H	24.30			0			
						減少	H									
	計			2,423.60	0						2,423.60			0		

(平成31年3月31日現在)

行政・普通財産 の区分	土地の権利区分	機関名又は施設 名等	所在地	土地の面積等						立木の推定蓄積量			
				前年度末 面積(m ²)	本年度の異動状況		本年度末 面積(m ²)	前年度末 現在高(m)	本年度中 増減高(m)	本年度末 現在高 (m)			
					増減別	異動日					面積(m ²)	増減理由	登記 年月日
行政財産	所有	農業試験場	鳥取市橋本字 奥ヶ谷291-1外	3,508.95	増加	H	3,508.95				0.00		
					減少	H						0.00	
					増加	H							0.00
					減少	H							0.00
計				3,508.95			3,508.95	0.00		0.00			
普通財産	なし				増加	H					0.00		
					減少	H						0.00	
					増加	H							0.00
					減少	H							0.00
計				0.00			0.00	0.00		0.00			
合計				3,508.95			3,508.95	0.00		0.00			

工 動産 該当なし

才 物 権 該当なし

力 無体財産権(特許権、著作権、商標権、実用新案件等) 該当なし

(ア) 異動状況
(イ) 出願及び登録の状況
(ウ) 活用の状況

キ 有価証券 該当なし

(2)金券類の受払状況

ア 金券の受払状況

(平成31年3月31日現在)

種 別	前年度末	本 年 度 中		本年度末	備 考
		受入額	払出額		
郵便切手及び郵便はがき	円 34,221	円 160,206	円 117,968	円 76,459	
収入印紙	1,800	0	0	1,800	
収入証紙		0	0	0	
タクシークーポン券		0	0	0	
鉄道バスプリペイドカード		0	0	0	
図書カード	1,000	0	0	1,000	職員が講演した際の主催者からの謝礼
クオカード	2,000	0	0	2,000	職員が外部団体からのアンケートに回答した際の謝礼
合 計	39,021	160,206	117,968	81,259	

イ タクシーチケットの受払状況

該当なし

15 財産の貸付け及び使用許可調べ

(1) 土地及び建物
ア 土地

(平成31年3月31日現在)

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏名	所名	
行政財産	NTT電話柱設置	鳥取市橋本260	電話柱5本 支線1条	H29.2.6	H14.4.1	H29.4.1~H34.3.31	丹繰・年額 9,000	9,000	鳥取市場所町2-258 西日本電信電話(株)鳥取支店		
行政財産	電力柱設置	鳥取市橋本260	電力柱3本 支線1条	H26.3.5	H16.3.31	H26.4.1~H31.3.31	丹繰・年額 7,480	7,480	鳥取市商栄町117-3 中国電力(株)鳥取営業所		
行政財産	ソフトバンク携帯電話基地局	鳥取市橋本奥ヶ谷2 59番地9	16.0㎡	H30.2.6	H15.10.24	H30.4.1~H35.3.31	丹繰・年額 18,700	18,700	東京都港区東新橋1-9-1 ソフトバンク株式会社		
計								35,180			
普通財産		該当なし									
計								0			
合計								35,180			

イ 建物

(平成31年3月31日現在)

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏名	所名	
行政財産	自動販売機設置	鳥取市橋本260	1.55㎡	H29.4.1	H29.4.1	H29.4.1~H34.3.31	丹繰・年額 19,165	19,165	米子市両三柳2887-2 ダイドーウエストベンディング(株)		
計								19,165			
普通財産		該当なし									
計								0			
合計								19,165			

(2) 物品

該当なし

16 借受不動産明細調べ

該当なし

17 職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ
 (1) 職員住宅 該当なし

(2) 職員駐車場
 ア 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積 (㎡)	貸付(使用)料(月額) (円)
行政財産	農業試験場(鳥取市橋本260番地)	12.5	1,000
普通財産	該当なし		

イ 異動状況
 (行政財産)

月別	前月末 人	当月減		当月増		当月末		調定額 円	減免状況	収入済額 円	収入未済額 円
		人	うち減免	人	うち減免	人	うち減免				
4月	39	2		3		40		40,000	-		
5月	40	0		3		43		43,000	-		
6月	43	0		0		43		43,000	-		
7月	43	0		0		43		43,000	-		
8月	43	1		0		42		42,000	-		
9月	42	0		0		42		42,000	-		
10月	42	0		0		42		42,000	-		
11月	42	0		0		42		42,000	-		
12月	42	0		0		42		42,000	-		
1月	42	1		0		41		41,000	-		
2月	41	0		0		41		41,000	-		
3月	41	1		0		40		40,000	-		
合計								501,000		円	円

18 寄附物件の受納状況調べ

該当なし

19 備品の処分状況調べ

(平成31年3月31日現在)

品名 (規格・銘柄)	数量	(保管年月日) 取得年月日	耐用年数	取得価格	不用決定 年月日	不用とする理由	処分				備考
							売却方法・棄却理由	処分年月 日	売却額	処分費用	
大豆収穫機 (ヤンマー農機コンバインCS21D)	1	H6.11.18	5年	4,309,520	H30.6.26	老朽化により、修理が 頻発し業務に支障が あるため	売却 更新機導入業者に 引き取りしてもらう	H30.7.24	-	0	
コンバイン (MC405DGCLM三菱農機)	1	H9.9.22	5年	5,355,000	H30.7.26	老朽化により、修理が 頻発し業務に支障が あるため	売却 更新機導入業者に 引き取りしてもらう	H30.8.27	-	0	
冷蔵庫 (サンヨーMDF-331)	1	H4.3.25	5年	230,000	H30.8.20	故障し修理不能のため	売却 更新機導入業者に 引き取りしてもらう	H30.8.27	-	0	
トルネードカウンター (分煙用空気清浄機)	1	H13.6.5	8年	241,500	H30.8.30	故障し使用不能のため	売却 産業廃棄物として 委託契約内で処分	H30.9.18	-	0	
合計	4			10,136,020					-	0	

20 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(平成31年3月31日現在)

現金、有価証券 又は物品名	数量	金額	亡失、損傷年月 日、時	同左場所	同左概要	報告 年月日	会計管理 局の 審査結果
軽貨物自動車 (鳥取480え8057)	1	円 リース車両 (41,904)	平成30年8月9日	不明	フロントガラス助手席側に2cm程度のヒビあり。運転中には破損が発生するような状況はなかった。おそらく駐車し公用車から離れていた時に飛び石かなにかの被害にあったものと思われる。	平成30年8月10日	賠償責任 なし
合計	1	(41,904)					

(2) 物品の照合

照合年月日	現物確認できなかった物品	現物が確認できなかった物品名	個数
平成30年7月23日 ～ 平成30年8月17日	・有 ・ 無		

2 1 事業別予算執行状況調べ

目 名	財産管理費	(令和元年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
県有施設営繕事業	県有施設(農業試験場)4箇所を修繕	

目 名	農業総務費	(令和元年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
プリンセスかおり ブランド化戦略事業	プリンセスかおりモデル栽培展示ほ設置に要する報償費	
農林水産試験場臨時 的調査研究事業	「土壌環境の違いが鳥系93号の生育特性に与える影響の把握」ほか6事業に係る需用費(消耗品費)	

目 名	農作物対策費	(令和元年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
生産振興推進事業	花壇設置(花苗等購入)に要する経費	
有機・特別栽培農産物等総合支援事業	日本有機農業学会に係る年会費(負担金)	

目 名	農業試験場費	(令和元年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
水稻新品種育成試験	「6主な事業に関する調べ」に記載	
奨励品種選定等試験	「24試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
新品種栽培マニュアル策定試験	「24試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
現在(いま)と未来を担う良食味品種のブランド化を目指す研究	「24試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
主要農作物原採種事業	「24試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
担い手の収益性向上を実現する超省力水稻栽培の確立	「24試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
集落営農の経営力向上と中山間農業の継続のための営農メニューの構築	「24試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
勤から観へ!ICTを活用した農業生産技術の確立試験	「24試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
有機栽培「トレジャー技術」を協働で発掘・解析・検証拡大する事業	「24試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載	
ゆうきの玉手箱(参の重)」技術確立↑ステップアップ編	「6主な事業に関する調べ」に記載	

目 名	農業試験場費（つづき）
事業名	事業の概要（目的、実績等）
水稲・麦・大豆の高品質・安定生産 を目指した病害虫防除技術の確立	「24試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載
新農薬の適用に関する試験	「24試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載
水稲大豆等新除草剤適性試験	「24試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載
転作野菜の導入を促進する排水等対 策技術の確立	「24試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載
土壌保全安全対策技術確立事業	「24試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載

2.2 農業機械の管理状況

(令和元年5月31日現在)

品名	形式及び規格	取得年月日	用途	稼働日数 (日)	修繕費等 (円)	左の主な内容	備考
トラクター	キセキ NT43FFUGCY	H25.6.28	耕地整地、 代かき	62	56,765	ミッションオイル、エレ メント、ブレード	
トラクター	クボタ ZL1-33	S61.5.7	"	34	6,480	アクセルレバー調整	
トラクター	ヤンマー FX435	H4.5.15	"	26	107,406	オイル漏れ、スイッチス タート、前輪タイヤ交換	
トラクター	クボタ GL367QBMAP	H10.4.27	"	58	138,880	前輪タイヤ交換、フィル ター取付	
種子用コンバイン	ヤンマー CA135PT	H3.9.30	稲刈り	0	0		
コンバイン	ヤンマー YH333	H30.8.27	"	6	0		平成30年購入
コンバイン	三菱 MC405DGCLM	H9.9.22	"	-	-		平成30年8月27日 廃棄(下取り)
コンバイン	ヤンマー GC 219	H17.6.30	"	7	498,528	クローラ交換	
コンバイン	ヤンマー AE330 X JU	H23.8.31	"	11	45,382	モーター修理	
種子用ハーベスタ	ヤンマー PKD600T	H1.9.5	"	0	0		
種子用ハーベスタ	ヤンマー PKD600T	H4.3.10	"	0	0		
テラー	ヤンマー YT-400	H4.5.29	収穫物等運 搬	7	6,206	タイヤチューブ交換	
テラー	クボタ TD 700	H18.5.8	"	7	18,997	キーシリンダ調整	
動力運搬車	CG191SLD-EW	H17.5.2	"	51	0		
動力運搬車	築水キャニコムELL801KZPW	H9.10.1	"	85	38,340	レギュレータ交換、シー ト	
小型特殊自動車	ロードガロ SL620JBA	H27.7.23	"	105	2,030	スプリング	
耕うん機	ヤンマー YS-80	S57.11.30	耕地碎土、 畦立	1	0		
耕うん機	クボタ TRS70-US	H28.7.25	"	10	0		
管理機	ヤンマー ST-512	H1.9.25	除草土寄せ、 畦立	0	0		
管理機	ヤンマー HK80XL	H20.6.16	"	1	0		
管理機	エースローター IKSAR600	H3.7.9	"	3	0		
ネギ用管理機	ヤンマー NK7X M3	H11.4.23	"	5	38,102	オイル漏れ修理	
管理機	ヤンマー RK750	H28.1.29	"	3	53,806	オイル漏れ修理	
乗用管理機	ヤンマー A-10GH	H24.1.18	"	7	0		
田植機	イセキ PC-S270	H14.4.30	田植	5	0		
田植機	クボタ SP-2HDSF	H9.5.20	"	0	0		
乗用田植機	イセキ PM40D-DCUW	H7.5.8	"	5	0		
乗用田植機	イセキ PQ4 さなえ	H15.5.16	"	4	0		
乗用田植機	クボタ NSU67-SP2. SJ-6N	H23.5.23	"	10	0		
バインダー	BE-50A	H17.7.29	稲、麦刈	6	36,742	ギヤー交換等	
バインダー	ヤンマー YB 65	H1.9.18	"	4	0		
バインダー	ヤンマー YB-50	H4.2.25	"	0	0		
普通型コンバイン	ヤンマー YH400	H30.7.24	大豆刈取	7	0		平成30年購入
大豆収穫機	ヤンマー CS21(D)	H6.11.18	大豆刈取	-	-		平成30年7月24日 廃棄(下取り)
不耕起播種機	みのる PFT-6-1	H8.10.1	乾田直播用 播種	0	0		
フォークリフト	小松 FG09-2	H9.10.16	収穫物等運 搬	73	167,200	特定自主検査、整備	
歩行型マルチャー	ヤンマー PRT851 F-RB40ABD	H9.7.15	耕うん、畝 立、マルチン グ	0	0		
大豆脱粒機	PBT610	H16.3.23	大豆脱穀機	1	0		
シリンダカッター	CX-201S	H17.9.30	藁用カッ ター	2	0		
自走式動噴	VSC457F-10	H27.1.16	作物防除	13	0		
合計				619	1,214,864		

23 生産物(品)に関する調べ

(令和元年5月31日現在)

生産部門	品名種類	作付面積(a)	生産計画数量(kg)	生産数量			場内使用(kg)	処分数量						分類換(kg)	差引残(kg)	備考
				前年度からの繰越(kg)	生産購入(kg)	計(kg)		売却数量(kg)	売却金額(円)	目的外使用		廃棄(kg)	乾燥減			
										数量(kg)	金額(円)		数量(kg)	金額(円)	数量(kg)	金額(円)
水稻	原種	245	4,265	3,060.0	4,007.0	7,067.0	357.0	1,861.0	944,217				478		4371.0	廃棄については経年経過の為
	一般玄米	319	18,150	0.0	16,433.0	16,433.0	88.0	16,345.0	2,788,143						0.0	
麦類	原種	40	400	537.0	410.0	947.0	34.0	375.0	121,905						538.0	H29收穫分
	一般								492,950							
大豆	原種		3,660	777.0	1,337.0	2,114.0	114.0	1,029.0	574,553				87.0		884.0	H28出荷 最終精算
	一般	58	580	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	59,598						0.0	
小計									5,091,704							
野菜	ブロッコリー	4	150	0	90.3	90.3	0	103.6	29,580							数量単位：60円/個、90円/個
	アスパラガス	1.4	70	0	157.6	157.6	0	157.6	143,300							数量単位：100円/束
	白ネギ(細型)	3	270	0	336.9	336.9	0	336.9	94,500							数量単位：100円/束
	白ネギ(標準)	6	1,800	0	1176.5	1176.5	0	1176.5	173,200							数量単位：100円/束
	ナス	6.0	180	0	175.0	175.0	0	175.0	37,920							数量単位：120円/袋
	レタス	0.3	10	0	8.5	8.5	0	8.5	1,530							数量単位：90円/個
小計									480,030							
合計									5,571,734							

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

(令和元年5月31日現在)

事業名	水稻新品種育成試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S43年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1, 587, 000円) 1, 566, 700円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 県の顔となるような水稻新品種の育成	場内 鳥取市気高 八頭町米岡 八頭町富枝 智頭町 若桜町	初期世代 10a 生産力検 定 26a 現地試験 50a	鳥取県における水稻の各栽培地帯及び栽培体系に適応する優良品種を育成する。	(成果) 6 主な事業に関する調べに記載
				(課題) 6 主な事業に関する調べに記載

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

2

(令和元年5月31日現在)

事業名	奨励品種等選定試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,330,000円) 1,238,300円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水稲 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査および現地調査を行い、供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地9ヶ所	40a 46系統・品種 各10a 早生粳 2ヶ所各1系統 中生粳 4ヶ所各1系統 極早生糯 2ヶ所2系統 中生糯 1ヶ所1品種	本県で普及奨励する水稲の優良品種を選定するため鳥取農試、国立研究開発法人、公立試(福井県農業試験場ほか6機関)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 1系統をやや有望、10系統を継続とし、10系統を打ち切りとした。 (2)本調査 1系統を継続とし、4系統を打ちきりとした。 (3)現地調査 本調査と同様の5系統を早生から中生まで供試し、調査結果を上記の判定に活用した。
				(課題) 新配布系統を含め早期に優良品種を選定。
2.麦類 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査および現地調査を行い、供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地1ヶ所	10a 二条大麦 2系統 10a 二条大麦 1品種	本県で普及奨励する麦類の優良品種を選定するため、ビール麦主産地の育成県(福岡・栃木)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 二条大麦は1系統を打ち切り、1系統を有望とした。 (2)本調査 二条大麦の1品種を有望とした。 (3)現地調査 本調査と同様の1系統を供試し、調査結果を上記の判定に活用した。
				(課題) 新配布系統を含め早期に優良品種を選定。
3.大豆 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査を行い供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地3ヶ所	15a 9系統 各10a 中生 3ヶ所各1系統	本県で普及奨励する大豆の優良品種を選定するため、国立研究開発法人(次世代作物開発研究センターほか3機関)、公立試(長野県農業試験場)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 2系統を継続とし、6系統を打ち切りとした。 (2)本調査 1系統を有望とした。 (3)現地調査 本調査と同様の1系統を供試し、調査結果を上記の判定活用した。
				(課題) 新規系統を含め、本県において栽培に適した優良品種を選定

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

3

(令和元年5月31日現在)

事業名	新品種栽培マニュアル策定試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H4年度(水稲・大豆)、H15年度(麦類) ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1, 225, 000円) 1, 202, 000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
<p>(単) 奨励品種への採用が見込まれる水稲・大豆・麦類品種・系統について、円滑な普及と導入農家における生産安定を図るため、特性を活かした栽培法を確立する。 また、奨励品種採用後に明らかになった栽培上の問題点についても技術対策を策定する。</p>	場内	10a 1品種	水稲 「プリンセスかおり」の移植時期と基肥窒素量の影響を明らかにする。	(成果) 水稲 「プリンセスかおり」の栽培において、収量を確保しながら、品質を維持するには、5月上旬に移植し、基肥窒素は4kg/10a施用することが望ましいと考えられた。
	場内	3a 2品種	大麦 「しゅんれい」の出穂期予測を継続するとともに、有望品種「アスカゴールド」の生育データを蓄積する。	大麦 葉耳間長によって実用的な出穂期予測が可能で、データ蓄積により精度が向上した。予測情報は現地に情報提供し、活用された。
	場内	1a 1系統 1品種	大豆 極遅い収穫時期における子実品質の経過を明らかにし、「四国30号」導入の利点について検討する。	大豆 本年度の収穫適期は11月下旬まで継続しており、以後降雨と低温による子実水分上昇の影響で汚損粒が発生して品質が低下するが、「四国30号」は「サチユタカ」と比較して経時劣化が小さい可能性がある。
<p>水稲主要品種における生育データの集積・解析と情報提供</p>	<p>場内 県内現地 14ヵ所</p>	<p>場内7a 坪刈2地点 /箇所</p>	<p>「コシヒカリ」、「星空舞」、「きぬむすめ」の生育データの集積するとともに、それらの生育情報について随時現地に提供を行う。</p>	(成果) 生育推移や収量等のデータを集積した。生育状況及び幼穂形成期等の予想日について「稲作技術情報」やHP等を通じて関係機関に情報提供した。
				(課題) データ集積を継続し、生育指標値を随時修正していくとともに、生育ステージ等の情報を随時発信

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

4 (令和元年5月31日現在)

事業名	現在(いま)と未来を担う良食味品種のブランド化を目指す研究		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度(水稲)、S56年度(大豆) ～ 継続		(予算額) 支出済額	(2,625,000円) 2,611,800円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
1 「きぬむすめ」食味の高位平準化に向けた技術開発	(食味)場内 鳥取市青谷町 三朝町	10a 20a 9カ所	1 低食味改善による良食味米の生産安定 ※窒素施肥法、鉄資材施用による食味改善技術の確立 ※収穫前の生籾を用いた食味計による仕分けでの食味向上対策の検討 2 ごま葉枯病対策 ※「きぬむすめ」の当病害に関する感受性を確認 ※遊離酸化鉄を中心とした土壌の実態把握 ※鉄資材施用による改善技術の検討	(成果) 1 低食味改善による良食味米の生産安定 ・良食味米となる穂肥窒素施用(施用量、回数など)について調査を行い、葉色と食味の関係について把握した。 ・生籾で食味を測定できる食味計を用いて食味値と葉色の関係について把握した。 2 ごま葉枯病対策 ・イネごま葉枯病菌の接種方法を確認した。来年度以降、イネごま葉枯病感受性の品種間差を確認する。 ・ごま葉枯病の発病度と土壌改良材施用量の関係について把握した。 ・鉄施用が生育・根・食味、土壌に与える影響を把握した。
	(ごま葉枯)場内 三朝町 鳥取市 岩美町	2a 10a 40a 30a		(課題) なし
2 次世代品種の現地適応性、市場評価等の把握	現地	県内19カ所の生育状況を調査	1)「星空舞」の県内各地における現地適応性 ・異なる栽培管理(作期、穂肥時期)、環境要因(標高、土壌)での状況を調査し、現地適応性を把握	(成果)「星空舞」に適した移植時期、水管理、穂肥の適期施用が重要で、出穂時期の望ましい葉色が明らかとなった。 (課題)出穂期の葉色を一定水準に保つための穂肥Ⅱの量を明らかにする必要がある。
	場内	5a	「星空舞」の栽培に適した緩効性肥料の検討	(成果) 生産現場で普及している緩効性肥料を参考に、緩効性肥料の溶出タイプの絞り込みを行い、緩効性肥料体系の溶出タイプと窒素施用量を把握した。 (課題) なし
	現地及び場内	現地19カ所及び場内で栽培されたサンプルを解析	2)良質良食味米を生産する栽培条件(1)で品質食味が優れるデータを抽出、等級と食味に優れる栽培条件を把握	(成果)栽培地域による品質食味の違いが明らかとなった。 (課題) 複数年度のデータ蓄積が必要である。
	現地及び場内	現地7カ所及び場内3サンプルを解析	3)需要拡大につながる「星空舞」の食味特性	(成果)株式会社味香り戦略研究所、一般財団法人日本穀物検定協会へ業務委託し、「星空舞」の食味特性を把握した。 (課題) 数年度のデータ蓄積が必要である。

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

5

(令和元年5月31日現在)

事業名	主要農作物原採種事業		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度(水稲)、S56年度(大豆) ～ 継続		(予算額) 支出済額	(7, 164, 600円) 7, 145, 353円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水稲の原原種の採種	場内	9.4a	水稲原原種の選抜、維持。	(成果) 「きぬむすめ」13系統、「ひとめぼれ」10系統、「プリンセスかおり」5系統、計3品種28系統の選抜、採種を行った。 (課題) 特になし。
2.水稲原種の採種	場内	85a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」、「星空舞」、「きぬむすめ」、「プリンセスかおり」について採種を行った。 (課題) 特になし。
3.大豆の原原種の採種	場内	9.3.a	大豆原原種の選抜、採種。	(成果) 「星のめぐみ」5系統、「鳥取大山2001」30個体について、選抜、採種を行った。 (課題) ウイルス病の発生によって、「鳥取大山2001」は原々集団が採種できない状況であり、「サチユタカ」の採種にウイルス病の影響が及ぶため、隔離ほ場で作付けせざるをえない。
4.大豆原種の採種	場内・現地	134a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「サチユタカ」、「星のめぐみ」、「緑だんだん」「鳥取大山2001」、「三朝神倉」について採種を行った。 (課題) 特になし。
5.麦の原原種の採種	場内	3.0a	大麦原原種の選抜、採種。	(成果) 「しゅんれい」24系統について、11月に播種を行った。 (課題) 特になし。
6. 麦原種の採種	場内・現地	41a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「しゅんれい」について採種を行った。 (課題) 特になし。

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

6

(令和元年5月31日現在)

事業名	担い手の収益性を実現する 超省力水稻栽培の確立		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H29年度 ～ R1年度		(予算額) 支出済額	(716, 000円) 641, 000円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調 査 の 対 象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調 査 等 の 目 標	試験研究調査の成果・課題
1. 催芽粃湛水 直播栽培の技 術確立	場内	20a	湛水直播栽培のさらなる省 力・低コスト化を図るため、 催芽粃湛水散播栽培法の技 術を確立する。	(成果) 催芽粃湛水散播栽培に適する除草剤を検討 し、薬害の出にくい剤を選定した。 (課題) 施肥の省力化、未検討除草剤の評価。
2. 高密度育苗 栽培の技術確 立	場内	25a	・高密度苗と疎植栽培との 組み合わせによる苗箱数削 減技術を確立する。	(成果) コシヒカリの高密度育苗栽培においては疎植と しない方が収量が確保でき、慣行苗の疎植栽 培よりも省力的かつ低コストであった。 (課題) 高密度育苗栽培における病害虫防除技術の確 立。
3. 収量・品質 の高位安定化 に向けた可変 施肥技術の確 立	場内 現地ほ場	10a 60a	・現地で簡単に使用できる 携帯型生育量装置による水 稲生育診断技術を開発する ・ほ場の地力や生育状況に 応じた精密なスマート農機体 系における増収、高位平準 化効果、経済性を評価し、超 省力栽培技術構築の資とす る。	(成果) ・コシヒカリときぬむすめにおいて生育量測定装 置の測定値と茎数や窒素吸収量との間に高い 関係があることを明らかにした。 ・現地ほ場においてスマート農機(可変施肥田 植機)の活用により、地力の高い部分で施肥量 を削減し、安定的な収量が確保できることを明 らかにした。 (課題) スマート農機体系の経済性評価。

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

7

(令和元年5月31日現在)

事業名	集落営農の経営力向上と中山間農業の継続のための営農メニューの構築		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H30年度 ~ R4年度		(予算額)	(526,000円)
			支出済額	526,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.集落営農の経営力向上のための営農メニューの構築	県内現地	5経営体	・優良経営体からの経営に関する聞き取り調査を行い、集計する。	(成果) 集落営農組織の経営多角化事例(米直売、野菜導入)の経営調査を行った。 (課題) 数値を整理しモデル化する。
2.中山間農業の継続のための営農メニューの構築	県内現地	6経営体	・優良経営体からの経営に関する聞き取り調査を行い、集計する。	(成果) 中山間地における特徴的な経営事例(水稲直播栽培、飼料用稲、畦畔管理、鳥獣害対策)の調査を行った。 (課題) 数値を整理しモデル化する。

2.4 試験研究調査事業別実施状況調べ

8

(令和元年5月31日現在)

事業名	勤から観へ！ICT等を活用した農業生産技術の確立試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H30年度 ～ R02年度		(予算額) 支出済額	(1,111,120円) 1,111,120円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
<p>(単) ICT機器等を取り入れることにより、営農技術の「見える化」、作業効率向上、コスト低減を図り、経験値や勘ではなく、データやマニュアルに基づいた営農を実施することで技術の高位平準化を目指す。</p>	<p>作物研究室 場内 現地 環境研究室 場内 岩美町 琴浦町 智頭町</p>	<p>9ほ場 6ほ場 10a 10a 10a 21ほ場</p>	<p>1 農業気象データを活用した営農管理の「見える化」等の検討 ※生育予測技術を用いた水稲、野菜栽培における適期作業予測技術の確立 ※山間地におけるメッシュ農業気象データの適応性向上 2 遠隔で測定するリモートセンシング技術の導入検討 ※ドローン等の生産営農等への活用技術の検討 ※水管理の省力化を目指した水位センサー等による方法について検証 3 将来の技術革新に対応するため、研究機関等の技術データ収集と蓄積を推進</p>	<p>(成果)</p> <p>1 農業気象データを活用した営農管理の「見える化」等の検討 ・生育予測技術については、主に生産現場で水稲「きぬむすめ」における穂肥施用時期及びブロッコリーにおける収穫時期の予測を行い、予測精度の確認を行った。 ・山間地における50mメッシュ農業気象データの現地適応性を把握するため、智頭町内に通風気温計を設置し、気温データの蓄積を行った。 ・水稲害虫2種について、1キロメッシュ農業気象データによる発生時期予測精度を確認した。</p> <p>2 遠隔で測定するリモートセンシング技術の導入検討 ・ドローンによるほ場上空からの撮影画像と葉色や収穫期頃の靱水分との間に一定の関係が認められた。 ・安価かつ身近で手に入りやすい資材を用いて水位センサーを試作した。</p> <p>3 将来の技術革新に対応するため、研究機関等の技術データ収集と蓄積を推進 ・水田作を中心に、各種資料に使用できる画像データ（作物体、作業技術等）を収集した。</p>
				<p>(課題) なし</p>

2.4 試験研究調査事業別実施状況調べ

9

(令和元年5月31日現在)

事業名	有機栽培「トレジャー技術」を協働で発掘・解析・検証拡大する事業		担当室別	有機・特別栽培研究室 環境研究室
実施計画期間	H26年度 ～		(予算額) 支出済額	(1,166,000円) 1,074,768円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1. 有機栽培現地実践ほ場の調査・検証(概要調査)	智頭町 八頭町 南部町 南部町 鳥取市	有機栽培 水稻ほ場 4ほ場 有機栽培 畑作ほ場 5ほ場	有機栽培実践農業者を対象に、水稻事例、畑作事例の実態を調査。生育収量等のデータ蓄積と解析、問題点の抽出、技術的なサポート等を行う。	(成果) 平成30年度は、雑草対策優良事例の田畑輪換取り組み事例、太陽熱処理取り組み事例、実践事例のチェーン除草法事例、先進的取り組みのエゴマ栽培事例等の実態調査を行い、データを蓄積し、技術解析及び問題点抽出を進めている。 (課題) 引き続き、データの蓄積を進め、技術を現場フィードバックできるよう解析を進める。
(単) 2. 先進的な有機栽培技術の科学的解明(詳細調査)	鳥取市 北栄町	有機栽培 水稻ほ場 6ほ場	前事業の3カ年の現地調査で抽出された優良農家(2事例)を対象として、雑草対策技術のメカニズム並びに環境要因(土壌条件等)が生育収量に与える影響を解析する。また、無施用高収量事例のメカニズムも明らかにする。	(成果) 優良事例の除草効果の高さに着目し、雑草引抜抵抗値を解析した結果、機械除草で引抜易い値が明らかとなり、優良事例では効果的に機械除草を実施していることが明らかとなった。 また、無施用高収量事例については、イトミミズの生息及び冬雑草が養分供給に影響を及ぼしていることが明らかとなった。 (課題) 2事例とも、データの解析をさらに進め、技術の普遍化・普及を進める。
(単) 3. 有機栽培体系化技術の実証展示	場内 八頭町 北栄町 鳥取市	14a 30a 1a 1a	確立・体系化した技術等をモデル的に場内及び現地ほ場で実証展示すると共に、現地での適応性を確認する。	(成果) 現場のイトミミズが形成する膨軟層を活用した抑草技術を、無除草で実証し、マスコミ等を通じて情報発信した。 ラッキョウ有機栽培の問題点の雑草対策として太陽熱処理法、収量改善として秋増肥施用体系を現地ほ場で改善実証した。 (課題) 生産者の指向する農法、現地での環境条件等にアレンジする必要性がある。
(単) 4. 「鳥取県有機農業推進ネットワーク」との連携	室内		当団体で有機農業者相互の情報交換・研鑽が円滑に実施されるべく協力する。	(成果) 「鳥取県有機農業推進ネットワーク」の活動について、総会での研修等サポートを行った。 (課題) 活動が円滑に進むよう、引き続き支援を行う。

2.4 試験研究調査事業別実施状況調べ

10

(令和元年5月31日現在)

事業名	「ゆうきの玉手箱（参の重）」技術確立↑ステップアップ編		担当室別	有機・特別栽培研究室、作物研究室、環境研究室
実施計画期間	H30年度 ～R4年度		(予算額) 支出済額	(1,572,000円) 1,427,892円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1. 水稲有機栽培における適性の高い品種の探索、除草方法並びに病害虫の抑制技術の検討	場内	場内 4ほ場	6 主な事業に関する調べに記載	
(単) 2. 畑作有機栽培における栽培法確立並びに病害虫対策の検討	北栄町 鳥取市 場内 八頭町 伯耆町 場内	場内 2ほ場		
(単) 3. 転換畑における有機栽培適品目選定、病害虫回避、輪作による雑草抑制、地力回復等の効果検討	場内 八頭町 伯耆町	場内 3ほ場 現地 3ほ場		

2.4 試験研究調査事業別実施状況調べ

11

(令和元年5月31日現在)

事業名	水稲・麦・大豆の高品質・安定生産を 目指した病害虫防除技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H27年度～		(予算額)	(1,156,000円)
			支出済額	1,155,400円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
<p>(単)</p> <p>鳥取県の水稲 ・麦・大豆栽 培において被 害につながる 病害虫を対象 に、本県に最 も適した効率 的防除法およ び省力防除法 を確立し、 (1) 安定生 産および高品 質化、(2) 防除の省力・ 低コスト化、 (3) 人と環 境にやさしい 農業の推進を 図る。</p>	<p>場内 八頭町 湯梨浜町 三朝町 江府町</p>	<p>30a 20a 20a 10a 20a</p>	<p>1 水稲の種子伝染性病害 (イネもみ枯細菌病)の防 除対策の確立 ※薬剤耐性菌の発生状況の 確認 ※新規種子消毒剤の防除効 果を確認</p> <p>2 イネいもち病の薬剤耐 性菌発生下における防除技 術の確立 ※耐性菌の発生状況の把握 ※新規剤の効果と実用性確 認</p> <p>3 ダイズにおける病害虫 防除技術の確立 ※ダイズ害虫マメシクイ ガに対する効率的防除技術 の確立</p> <p>4 生産安定のための水稲 省力防除技術の確立 ※イネ縞葉枯病(ヒメトビ ウンカ)、イネゴ類の効率 的防除対策および水稲湛水 直播栽培における省力病害 虫対策の確立</p>	<p>(成果)</p> <p>1 水稲の種子伝染性病害 ・薬剤耐性菌検定を実施 ・新規種子消毒剤の防除効果を確認。</p> <p>2 イネいもち病(薬剤耐性菌) ・薬剤耐性菌検定を実施。 ・新規剤の防除効果を確認(終了)。</p> <p>3 ダイズ病害虫(マメシクイガ) ・フェロモントラップによって、発生消長と 発生盛期を解明。 ・カメムシ類との同時防除可能な新規剤の 効果果確認。</p> <p>4 省力防除技術 ・イネ縞葉枯病(ヒメトビウンカ):ヒメト ビウンカおよび縞葉枯病に対する新規剤の防 除効果を確認(一部をH30成果情報化)。 ・水稲湛水直播栽培での防除:薬剤の種子塗 沫および薬剤の土中施用の防除効果を確認 (H30成果情報化)。 ・イナゴ類:常発地において育苗箱施用剤の 防除効果を確認。</p>

2.4 試験研究調査事業別実施状況調べ

12

(令和元年5月31日現在)

事業名	新農薬の適用に関する試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S46年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(570,000円) 570,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) 本県の普通作物病害虫に適した新規の防除薬剤の選択および登録促進を目的として、日本植物防疫協会および農林水産航空協会から受託し、効果を確認するとともに、本県の防除対策に資する。	場内 鳥取市 三朝町	40a 20a 20a	殺菌剤およびその混合剤9剤(13処理)、殺虫剤およびその混合剤12剤(12処理)、計21剤(25処理)の防除効果を検討する。	(成果) 新規薬剤の防除効果は、判定基準A(実用性が高い)11剤(14処理)、B(実用性がある)5剤(5処理)、C(効果は低い実用性あり)5剤(5処理)、D(実用性低い)は1剤(1処理)であった。
				(課題) なし

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

13

(令和元年5月31日現在)

事業名	水稲大豆等新除草剤適用性試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H24年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(456,000円) 456,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) 1.水稲新除草剤試験	場内	20a	水稲用新除草剤の本県への適応性検討。	(成果) 移植水稲3剤、直播水稲対象3剤の計6剤について実用可能と判定した。 (課題) 難防除雑草に有効な新除草剤の探索。
2.効果の高い除草剤使用方	—	—	本年度対象薬剤なし。	(成果) 直播に登録のある〇剤についてj効果、葉害の傾向を判定した。 (課題) 継続

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

14

(令和元年5月31日現在)

事業名	転作野菜の導入を促進する排水等対策 技術の確立		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H28年度 ～ H32年度		(予算額) 支出済額	(717,000円) 704,200円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調 査 の 対 象 ・ 数 量 ・ 範 囲	本年度の試験研究 調 査 等 の 目 標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.ほ場条件に 応じた排水対 策の選定手法 の確立	県内現地 水田転作野 菜ほ場	9か所	排水対策の選定に必要な 着眼点を整理するため、現 地ほ場の排水不良要因を把 握する	(成果) 調査した圃場の排水不良要因を把握し、それ ぞれ必要な対策を考察、排水対策の有効性を 確認した。 (課題) 広範囲のほ場条件での調査、診断、分類
2.弾丸暗渠の 処理方法と持 続性評価	場 内 県内実演圃 場	20a 1か所	瓦の破砕材を弾丸暗渠の 疎水材として充填した時の 作業性と排水効果持続性を 検討する。	(成果) 瓦破砕材充填の弾丸暗渠処理は、フレコンと フォークリフトを利用した連結方式施工で省力 化となった。しかし施工2年目で透水性が低下し た。 (課題) 透水性の復元
3.作物の能力 を利用した排 水対策	県内調査圃 場	1か所	トウモロコシ跡作の排水 改善効果など、作物の能力 を最大限活用することで有 利な作付け体系の構築を目 指す。	(成果) トウモロコシの根は耕盤層下まで達し、水浸 入量の向上、作土層下の透水性向上の効果が あった。 (課題) 白ネギ等野菜栽培に与える効果確認
4.転作ほ場に 適したアスパ ラガス栽培法 の確立	場 内	2a	初期数年間の収量を増加 させ早期に成圃並の収量を 確保する栽培法として密植 栽培を検討する。 また、高収量・品質が期待 できる品種の選定を目指 す。	(成果) 栽植密度2倍栽培で収量が1.2倍の増収とな ったが、茎枯病が多発生し、実用的ではなかつ た。また新品種ゼンユウガリバーは、2年続けて 太物率および収量が高く、有望品種であった。 (課題) なし
5.ブロッコリー の耐湿性品種 選定	場 内	4a	耐湿性および品質・収量面 で有望な10～11月穫り品種 の品種を選定する。	(成果) ほ場湛水試験を行い、耐湿性および収量品 質面から2年続けてSK9-099が良好であった。 (課題) 慣行品種以外の優良系統の選定
6.白ネギ用株 元培土器の開 発	県内調査圃 場 園芸試験場 農業大学校	1か所 1a 1a	白ネギ用株元培土器を実 用性の高い機械に改良す し、最終土寄せへの応用可 否、砂地以外での実用性 について検討する。	(成果) 培土器の高さ調整の簡便化や負荷を軽減す る仕組みに改良した。培土板の追加装着で最 終土寄せに応用可能となった。過湿条件かつ粘 着質な土壌でも使用可能であった。 (課題) なし

2.4 試験研究調査事業別実施状況調べ

15

(令和元年5月31日現在)

事業名	土壤保全対策技術確立事業		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S54年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(716,000円) 704,200円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) ＜農地管理実態調査＞ 地球温暖化防止と土壤肥沃度の変化を把握するため、農地に蓄積している炭素・窒素の量とそ の変化についての調査を行う。	県内14ヶ所の水田、樹園地、草地 (場内10、倉吉1、湯梨浜1、北栄1、琴浦1)	土壤理化学性調査、断面調査、 (18項目)、アンケート調査	適切な土壤管理法の確立にむけた土壤中の炭素、窒素量とその変動を把握する。	(成果) 計画通り調査を実施。 (課題) なし
(単) ＜土壤機能モニタリング調査＞ 県内耕地土壌の実態調査を行い、土壤管理や土壤改良のための基礎資料とする。	県内5ヶ所の水田、畑 (琴浦2、米子1、日野1、日南1)	土壤理化学性調査、断面調査、 (36項目)、アンケート調査	本年度の調査の実施と過去データの整理を行う。	(成果) 計画通り調査を実施。 (課題) なし

○ 意見、要望等

(1) 業務に関する意見、要望等

なし

(2) 監査委員事務局に対する要望等

なし
